

令和5年度 学校評価書(共通) 後期

校名 宇和島市立城南中学校

1 自己評価書

教育目標	自立と共生の力を持つ生徒の育成
基本方針	1 自主・自律の精神に富み、活気ある本校教育の伝統を継承し、主体的な教育活動の展開により、自信と誇りを持ち、可能性に挑戦する生徒の育成に努める。 2 保護者や地域社会と連携した生徒指導に努めると共に、時代の変化に対応できる確かな学力と豊かな感性を持ち、他者を尊重することのできる生徒の育成に努める。 3 地域と教育理念を共有し、12小学校区の人、こと、もの、情報を効果的に繋げ、地域と共にある学校を実現することで、郷土愛を持ち社会のために貢献できる生徒の育成に努める。
本年度重点目標	1 生徒指導・支援の充実した学校の推進 2 生きる力を育む学校の推進(知・徳・体の充実) 3 安全・安心な学校の推進 4 家庭・地域から信頼され誇りとされる学校の推進 5 働き方改革の推進

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	前期
確かな学力の定着と向上	①	全国学力・学習状況調査及び市標準学力調査の活用 自校のねらいに沿って、各調査を分析し、成果と課題を把握し、具体的な対策を講じた。	・分析資料の作成 ・具体的な対策の実施	A B	B	A
	②	主体的・対話的で深い学びの実現に向けて授業改善に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B A A	A	A
		ねらいを明確にした分かる授業を行うとともに、学びの成果を実感させる振り返りを行った。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート	B A	B	A
		一人1台端末(iPad)及びEILS(えひめICT学習支援システム)を積極的に活用し、個に応じた新しい学びのあり方の推進に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A A A	A	B
	③	家庭学習の充実 家庭との協働による主体的な学習習慣の確立に努めた。(予習・復習・振り返り等)	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A A A	A	B
④	読書活動の充実 読書に対する関心や意欲が高まるような取組や声掛けを積極的に行った。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B A B	B	C	
⑤	ふるさと学習及びESDの推進 社会や地域の課題解決や活性化に向けた活動及び調べ学習等を通して、地域に対する誇り・愛着の醸成や、持続可能な社会を創造しようとする態度の育成に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B A A	A	B	

(成果と課題)  
1・自ら学ぶ力を高めるために自習学習(けたぶれノート)にも継続して取り組んだ。また、表現力の育成のために視写やeスタの学習に取り組んだ。  
2・全国学テの結果を受けて、生徒の力が不十分な内容については時間を掛けて取り組んだ。その結果は少しずつだが成果に表れてきた。  
3・全国学テの結果で正答率が低かった部分については、授業で意識的に復習等に時間を多く使っている。結果は徐々に改善されている。  
4・全国学力学習状況調査の教科ごとの分析が更に必要である。  
5・地域学習の発展的継続への手立てが必要である。  
6・ふるさと学習やESDに関する学習については、次年度に引き継いだら良いもの、工夫すべきものなどの検証が必要である。  
7・3年生と特別支援が主担当ということもあり、どうしても教科書の内容を終わらせたり、理解と定着に時間を割いたりと不十分であった部分も多かった。  
(改善策等)  
1・職員の意識を「この活動は大変だ」から「この活動は大切だ」に無理なく変える手立てを考えたい。  
2・ふるさと学習の活動について、各学年での丁寧な話し合いを行う。  
3・ICTの活用について、単元ごとに1つずつでも、自分でできる方法で取り組みたい。  
4・宿題の意味やねらいについて、年度当初に生徒に伝える機会があるといい。  
5・各教科の宿題についても、簡単に宿題のねらいを伝えていく。  
6・全国学テを教科ごとに分析し改善の手立てを検討し、実践する。また、年度末に検証していきたい。  
7・全国学テで正答率が低い分野について、授業の中での扱いを増やすとともに期末テスト等での出題を増やす。  
8・10分間テスト、振り返りテストの活用の仕方を検討する。

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	前期
生徒指導の充実	①	規範意識を高めるための共通理解、共通実践に努め、児童生徒の行動規範が高まってきた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B A A	A	B
	②	児童生徒に寄り添った対応を行うとともに、児童生徒同士の人間関係づくりや仲間意識に支えられた集団づくりの推進に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	B A A	A	B
		不登校の未然防止や状況改善に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして取り組んだ。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A A A	A	B
	いじめの未然防止、早期発見に努めるとともに、迅速な初期対応や組織的な対応等により、いじめの早期解決に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A A A	A	B	
③	基本的な生活習慣の徹底 基本的な生活習慣の確立に向けて、家庭との連携・協力の下、学校全体で組織的に取り組んだ。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	A A A	A	B	
④	自己肯定感等 自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的にに行った(自分にはいいところがある)。 自己有用感(人の役に立っている)や達成感を醸成する取組により、子どもの意識に変化が見られた。	・教師アンケート ・児童生徒アンケート ・教師アンケート ・児童生徒アンケート	A A B A	A	B	

(成果と課題)  
1・自己有用感を高めるための取組を充実させた。  
2・前学期の評価を受けて、小さなことでもポジティブに捉え褒めるようにすると、生徒からの反応も良くなった。一方で、生徒指導からの朝の会等のきまりなどは、まだ浸透していないのではないかと実感している。褒めるべきところは褒め、不十分なことには指導を継続する必要性を感じる。  
3・自己肯定感と自己有用感を高める指導や声掛けは継続。来年度に向け整えるべきところは整えるを意識した指導を行っていく必要がある。  
(改善策等)  
1・生徒とのコミュニケーションを充実させるとともに、自己決定させる場面を意識的につくる。  
2・生徒の自己判断により徹底できていないことがあるため、1つ1つ丁寧な指導を心掛けていきたい。  
3・きまりについては、教職員だけでなく、生徒会の取組を入れるなど、分かりやすく丁寧に学べるようにしたい。  
4・行動規範の高まりと自己有用感の少なからず関係性があると考え。委員会活動や係活動等で何かを呼び掛けた際に周りからきちんとした反応がないと自分の役割を果たすことができなかったと感じることもある。生徒の呼びかけに周りがきちんと答えられるような集団づくりが必要となる。規範意識を高めさせるとともに、生徒に役割を与え、やり遂げさせることで自己有用感や達成感を味わわせたい。

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	評価
働き方改革	① ワーク・ライフ・バランス	仕事のやりがい重視しつつ、時間外勤務が月80時間を超える教職員ゼロを目指して、教職員の意識改革に努めた。	・教師アンケート ・「出勤・退庁調査」の分析と活用	B A	B	C
	② 働きやすい環境づくり	新型コロナウイルス感染症5類感染症への移行後の業務改善に向けて、教育活動の回復や精選に慣れにとられることなく取り組んだ。 休業日の設定を含めた計画的な課外活動や部活動等の適切な運営がなされた。	・教師アンケート ・教師アンケート	B A	B A	C C
	③ 他の教職員のサポート体制の充実	「何でも相談し合える雰囲気づくり」「経験の浅い教職員を皆で支える雰囲気づくり」など、温かく働きやすい職場づくりに努めた。	・教師アンケート	A	A	B

(成果と課題)

- 自分なりの仕事への取り組み方を工夫することで、効率よく仕事が進んでいる。
- 難しい問題への対応がチームによってなされている。
- キャリアステージによって「この先生ではまだ任せられない」という仕事もあるのだけれど、そうでない仕事については積極的に業務量の少ない先生に極力割り振るようにする、例えば、朝ティアなどは生徒会主催だが、生徒会の先生だけで見取りをするのではなく、比較的朝に余裕のある先生にも協力を依頼する等できるのではと思う。
- 今年度は自分の仕事はそれほど多くなく、他の先生の仕事も手伝いながらも時間外勤務時間を大幅にカットできたと思います。一方で、仕事が多い先生に余裕がなく、本来詰めなければならないところが詰められておらず、どう動けば良いか分からないといったことも度々でした。言葉は悪いですが、多忙な先生へのフォローがなく、嫌な思いをされているのではないかと、と思われる場面にも何度か遭遇してきました。本当の意味で「チーム学校」で動いているのか、再考する必要があるのではないかと、思う。
- 効率よく仕事が進められるよう考えている。

(改善策等)

- 業務改善で、効果が上がった事例を紹介し合うなどの研修を行う。
- 部活動の地域移行を行政と協力して進める。
- 他校と情報交換して効果的な取組を共有する。
- 職員の要望やアイデアを聞き取り、取組可能なものから随時取り組む。

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	前期
地域との連携	① 学校運営協議会の活性化	全教職員に対して、学校運営協議会の役割・目的の周知徹底に努めた(校内体制)。	・教師アンケート	A	A	B
		学校運営協議会の役割・目的の周知徹底に努めるとともに、全職員の共通理解の下、学校運営協議会の活性化を図り、地域の力を学校運営に生かすよう努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・地域アンケート	A A A	A	A
		② 情報発信	家庭や地域に対して、教育活動に関する情報を、文書やホームページ等で積極的に発信した。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・地域アンケート	A A A	A
③ 来校・相談体制	保護者や地域の方々に来校しやすく、相談しやすい体制・雰囲気づくりに努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・地域アンケート	A A A	A	A	

(成果と課題)

- コロナの影響があっても、工夫をすることで外部の方に来ていただく会合を持つことができた。
- 感染状況を勘案して、その時々適切な判断をするしかないと思う。
- 主幹教諭によるホームページでの情報発信は毎日細かく更新されているのでありがたいと思いますが、それなりの負担ではないかとも感じています。
- 来年度以降(もしくは3学期以降)は、ホームページ更新担当者を複数にして、それぞれが違った視点で更新していくのも一つのアイデアなのかなと感じている。若年教員から見た生徒の様子と教務等ベテランから見た生徒の様子はまた違う部分もあると思うし、教務主任にとっては業務改善にも繋がるのではないかと、思う。
- 行事ごとにQRコードを使って保護者アンケートを実施している。最初は回収率が高かったが、徐々に回収率が下がっている。

(改善策等)

- ボランティアの要望は随時届いているので、メンバーが固定化しないように対応する。
- 行事ごとの保護者アンケートの回収方法について、回収率が高くなる手立てを検討する。

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満